

## ～妊娠・授乳と薬について～

今回は、妊娠・授乳中に薬を安心、安全に使用していただくために知ってもらいたいことをお伝えします。

### ① 妊娠と薬

妊娠かな・・・？と思ったら

#### ・これから薬を飲む方

妊娠時期によっては、赤ちゃんがお薬の影響をととても受けやすい時期があります。自己判断での薬の服用は避けましょう。服用する薬について必ず医師・薬剤師に相談して下さい。

#### ・薬を使用して治療中の方

自己判断での服用中止はしないで下さい。薬の中止により、お母さんの病気が悪化し、赤ちゃんに影響がでることがあります。糖尿病・てんかん・うつ病等の薬を服用中の方は、病気のコントロールが大切です。まずは医療機関に相談して下さい。



#### <妊娠中に服用可能とされている薬の一例>

**痛み止め：**カロナール錠（成分名：アセトアミノフェン）

**下剤：**マグミット錠（成分名：酸化マグネシウム）、ラキシベロン内用液（成分名：ピコスルファート）

#### ！注意！

妊娠後期は痛み止めの使用に注意が必要です！

ロキソニン錠（成分名：ロキソプロフェン）等の痛み止めの服用・外用剤の使用は胎児の動脈管という大事な血管の閉塞や、羊水減少を引き起こすことがあります。

### ② 授乳と薬

お母さんが薬を服用すると、その成分が母乳に出ることがあります。しかし、多くの薬は母乳へは出にくく、薬を服用しながら授乳を続けることが可能です。

持病のため薬を服用している時は、その薬が授乳に影響があるか確認し、影響がある薬の場合は、影響の少ない薬へ変更して服用を継続することもあります。

服用している薬がある時、薬の服用を開始する時は医師・薬剤師へ相談して下さい。



#### <授乳中に服用可能とされている薬の一例>

**痛み止め：**カロナール錠（成分名：アセトアミノフェン）、ロキソニン錠（成分名：ロキソプロフェン）

**下剤：**マグミット錠（成分名：酸化マグネシウム）、ラキシベロン内用液（成分名：ピコスルファート）

当院産科病棟には薬剤師が常勤しています。  
薬に関する不安や心配、疑問に思う事があれば、  
気軽に相談して下さい。

